



大阪市立大学「人工光合成研究拠点」 2019年度 第1回講演会の報告

今回のニュースレターでは、2020年1月14日（火）に開催された人工光合成研究拠点第1回講演会（触媒学会生体関連触媒研究会共催）について報告します。今回の講演では、青山学院大学 理工学部 化学・生命科学科 長谷川美貴先生に「分子の形と希土類の発光をデザインする」と題してお話いただきました。

光化学現象は、分子やその集合化にかかわる情報が鋭敏に反映されています。長谷川先生の研究室では、モル吸光係数が小さなランタニド金属を、数千〜数万の吸光係数を持つ有機化合物の光アンテナとの金属錯体とし、アンテナ分子からの光エネルギー移動を利用することで、強い発光を得るといふ分子形状と発光特性に関する研究をしています。



長谷川 美貴 先生

講演では、分子性薄膜の水面から固体基板上への転写の際の相転移やゲルなど、いわゆる物質の三態

に分類することが難しい系の界面を利用して、様々な希土類を含む錯体の配向と発光強度・波長を制御する研究について説明されました。また延伸高分子膜やLB膜に希土類を組み込み、偏光性特性や発光寿命を制御する研究についても包括的にお話されました。



講演会の様子

講演会には多数の参加があり、参加した先生方や学生さんから沢山の質問が挙がり活発な講演会となりました。このような講演会を今後も定期的で開催する予定です。人工光合成研究拠点では、当研究センターに関するお知らせや講演会開催の案内など、最新情報をホームページやFacebookに掲載しています。是非チェックしてください。